

学会彙報（二〇二二年一月～六月）

◇二〇二一年度に提出された修士論文・卒業論文は次のとおりです。

一、大学院 課程博士論文

※論文名・氏名リポジトリ非公開

二、大学院 修士論文

※論文名・氏名リポジトリ非公開

三、文学部 卒業論文

※論文名・氏名リポジトリ非公開

※論文名・氏名リポジトリ非公開

※論文名・氏名リポジトリ非公開

仏教学会活動報告

◇卒業論文・修士論文梗概発表会

一月十四日(金) 午後四時二十分～

於慶開館(K三〇三教室)

発表会終了後に記念撮影を行った。なお、例年開催していた送別懇談会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

◇研究発表例会

一月十八日(火) 午後二時四十分～

於響流館(マルチメディア演習室)

「世親の法滅観とその典拠」 本学講師 上野 牧生

「毘沙門天変容の過程」 本学教授 ダシユシヨバラニ

二〇二二(令和四)年度 仏教学関係講義題目

一、文学部仏教学科

演習

仏教学演習Ⅰ

仏教学演習Ⅱ

仏教学演習Ⅲ

仏教学演習Ⅳ

采翠 晃

三宅伸一郎・DASH SHOBA

山本 和彦・采翠 晃

箕浦 暁雄

新田 智通・三宅伸一郎

DASH SHOBA・上野 牧生

戸次 顕彰・采翠 晃

概論

仏教学概論

采翠 晃・山本 和彦

新田 智通・戸次 顕彰

講義

大乘仏教入門

インド仏教思想論

中国仏教思想論

日本仏教思想論

中国仏教史

日本仏教史

箕浦 暁雄

上野 牧生

戸次 顕彰

R.FRHODES

倉本 尚徳

國賀由美子・大岬 啓

浄土教史概説

東館 紹見・平野 寿則
福島 栄寿・川端 泰幸

宗教史

山田 恵文
小林 敬

インド学

上野 牧生

現代仏教論

新田 智通

現代と真宗

藤原 正寿

死生学

門脇 健

生命倫理

藤枝 真

人間関係学

谷口奈青理

地域仏教論

三宅伸一郎

仏教学特殊講義1 『華嚴経』如來性起品の研究

織田 顕祐

仏教学特殊講義2 『華嚴経』十地品の研究

織田 顕祐

仏教学特殊講義3 (インド仏教遺跡と聖地巡礼)

中西麻一子

仏教学特殊講義4 (小乗仏教聖典の世界)

新田 智通

実践研究

仏教文献基礎演習

戸次 顕彰・M.J.CONWAY

中西麻一子・本明 義樹

秦野 貴生・村上 無量

上野 牧生・松岡 淳爾

現代仏教演習

岸上 仁

地域仏教演習

DASH SHOBA

初期仏典を読む

秦野 貴生

浄土経典を読む

山田 恵文・本明 義樹

維摩経を読む

梶 哲也

法華経を読む

戸次 顕彰

欧文仏典を読む

M.J.CONWAY

仏教学特殊演習1・2

村上 昌孝

『バガヴァッドギーター』の精読

村上 昌孝

仏教学特殊演習3・4

DASH SHOBA

(パリ語仏典を読む)

DASH SHOBA

仏教学特殊演習5・6

福田 洋一

(ツォンカバ『善説心髓』の理解を深める)

福田 洋一

臨床フィードワーク

箕浦 晁雄

パリ語

DASH SHOBA

サンスタクリット語

村上 昌孝

古典チベット語

三宅伸一郎

二、大学院仏教学専攻

基礎科目

仏教の視点

一楽 真・藤田 義孝

専攻交流演習

福島 栄寿・村山 保史

専攻科目

仏教学特殊研究Ⅰ(講義)

箕浦 晁雄・采翠 晃

仏教学特殊研究Ⅱ(文献研究)

新田 智通・采翠 晃

仏教学特殊研究(演習)

箕浦 晁雄・山本 和彦

采 暉・三宅伸一郎
DASH SHOBA

選 択 科 目

仏教学特殊研究（論文指導）

箕浦 暉雄・山本 和彦
采 暉 晃・三宅伸一郎

DASH SHOBA

仏教学研究 1・2

（サンスクリット原典テキスト校訂）

山本 和彦

仏教学研究 3・4

（Reading the *Tiantai sūtra* in English）

R.F.RHODES

仏教学研究 5・6（合同ゼミ）

箕浦 暉雄・采 暉 晃

山本 和彦・三宅伸一郎

DASH SHOBA

インド学研究

仏教学研究（文献研究） 1・2

（チベット訳仏教文献の研究）

仏教学研究（文献研究） 3・4

（ツォンカパ『善説心髓』の研究）

仏教学研究（文献研究） 5・6

（『大般涅槃経』の研究）

仏教学研究（特別セミナー）

（大乘仏教とは何か？）

新田 智通

福田 洋一

織田 顕祐

新田 智通

編集後記

『仏教学セミナー』第一一五号をお届けいたします。

今号の巻頭論文には本学教授である山本和彦先生による翻訳研究の成果を掲載することができました。次号以降もこの続編を連載していただく予定です。そして、山本先生が二〇一五年に刊行された学術書『インド新論理学の解脱論』（法蔵館）の書評を佐藤宏宗先生からご寄稿いただきました。佐藤先生からは、山本先生のこれまでのインド学研究、とりわけインド論理学を中心としたご研究の成果を紹介していただきました。

また、これまで本学文学部の助教をお勤めいただいた岸野良治先生、井内真帆先生、堀田和義先生からもご執筆いただき、本号に掲載することができました。岸野先生は第一一三号（二〇二一年）、井内先生は第一一四号（二〇二二年）、堀田先生は第一一二号（二〇二〇年）の、それぞれ続編となります。現在、学界の最前線でご活躍の先生方からこうして原稿を寄せていただいたことは編集担当者としてありがたく思っております。

さらに今号には、谷口愛沙氏を筆頭とする三名の先生による鈴木大拙研究の成果の一部が「研究ノート」として掲載されました。こちらも今後の連載が期待されます。

さて今年になって、ロシアがウクライナに侵攻するという悲しい知らせが世界を騒然とさせました。世界がコロナウイルスと対峙し、その収束すら見通せない中での出来事です。二〇二二年三月の本学卒業証書授与式での学長の告辞には「怨みに報

いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない」という『ダンマパダ』の言葉を引かれ、「これは永遠の真理である」と説いた釈尊の言葉を卒業生に向けられました。私たちが日ごろ学んでいる仏教は、時代・社会の形態がいかに変化しても変わることはない人間の真実であるということ、このように人類が繰り返す戦争の問題を通して知らされます。コロナに翻弄されながら学生生活を送った仏教学科の卒業生たちが、時代の大きな転換点の中にも、人間として変わらない大切なものを追求しつつ、卒業後も活躍されることを願っています。

最後になりましたが、執筆者ならびに関係各位のお力添えによって、こうして本誌を刊行することができました。あらためてご関係の皆様にお礼を申し上げます。（K.T.）